

二年四月月のボランティア活動を直し、これからフルタイム職を終えて職場に復帰したのは、九四年五月のことだった。富士通の末岡直樹さん

「39」は会社の規定で休職前と同じ部署に戻ったが、二年余りのボランティアは予想以上に病手だった。部長には「インターネット

サラリーマン

第473話

待っていたのは自覚ましい「コンピューター関連業界の進退だ。ネットワーク開発の発想が根底から変わっていた。休職前と同じ開発チームのプロジェクトリーダーとして二年間奮闘したが、突然部長は呼ばれて第三セクターへの出向を言い渡された。休職前

復職後の厳しい現実

直した。本社に戻るまで精いっぱい働いた。

一方で帰国後、協力隊の大阪府OB・OG会への参加が活発になった。国際協力についてのエッセーの審査、協力隊の応募相談、会報の作製。残業のない日はほとんど会社に顔を出した。

九七年に会長になってからは、仕事との両立に悩み始めた。職場と同じ仕事で自宅でするまでに、自宅のパソコンは会社のパソコンに合わせ

て何度も買い替え、通勤してOB・OG会に出たから、帰宅して夜遅くまで働いた。会社のボランティア休職を利用した社員の離職率は高い。先に

価値観を大きく変えるからだ。

復職して五年、システムエンジニアとして自分なりに能力を磨きあげて使ってきたと自負している。今の仕事に不満はない。だが、四十歳を目前にして技術革新の激しい業界についていくのがつらくなってきた。今は「もっと国際協力にかかわりたい」といふ気持ちの方がさらに強くやるのを抑えられずにいる。

現実の厳しさは分かっている。社会に出た後に抱いた疑いや思いを表現できる人はごく少ないだろう。それでも、ボランティア休職で見つけた「生きがい」に挑んでいきたい。OB・OG会長の任期が延長した。末岡さんは今、新たな道を探索し始めた。

ボランティア休職



今、転機に立っている

協力量の経験はそれまでの人生観や